

※持ち味／競争力を活かす 5つのパターン

①ニッチトップ(自社製品)

- ・他社の参入全くなし、内製化率80%、メンテナンスがポイント



②ダントツ技術(自社技術)

- ・量産品の部品・要素技術だが、その会社にはできない。



③とりまとめ能力

- ・コアの技術をベースに素材から加工・組立・検査まで一貫生産

④特化して新分野進出(大型・小型)

- ・超大型加工に特化して航空機・建機・医療分野に進出
- ・小型・複雑・短納期・極小ロットに特化して医療分野に進出

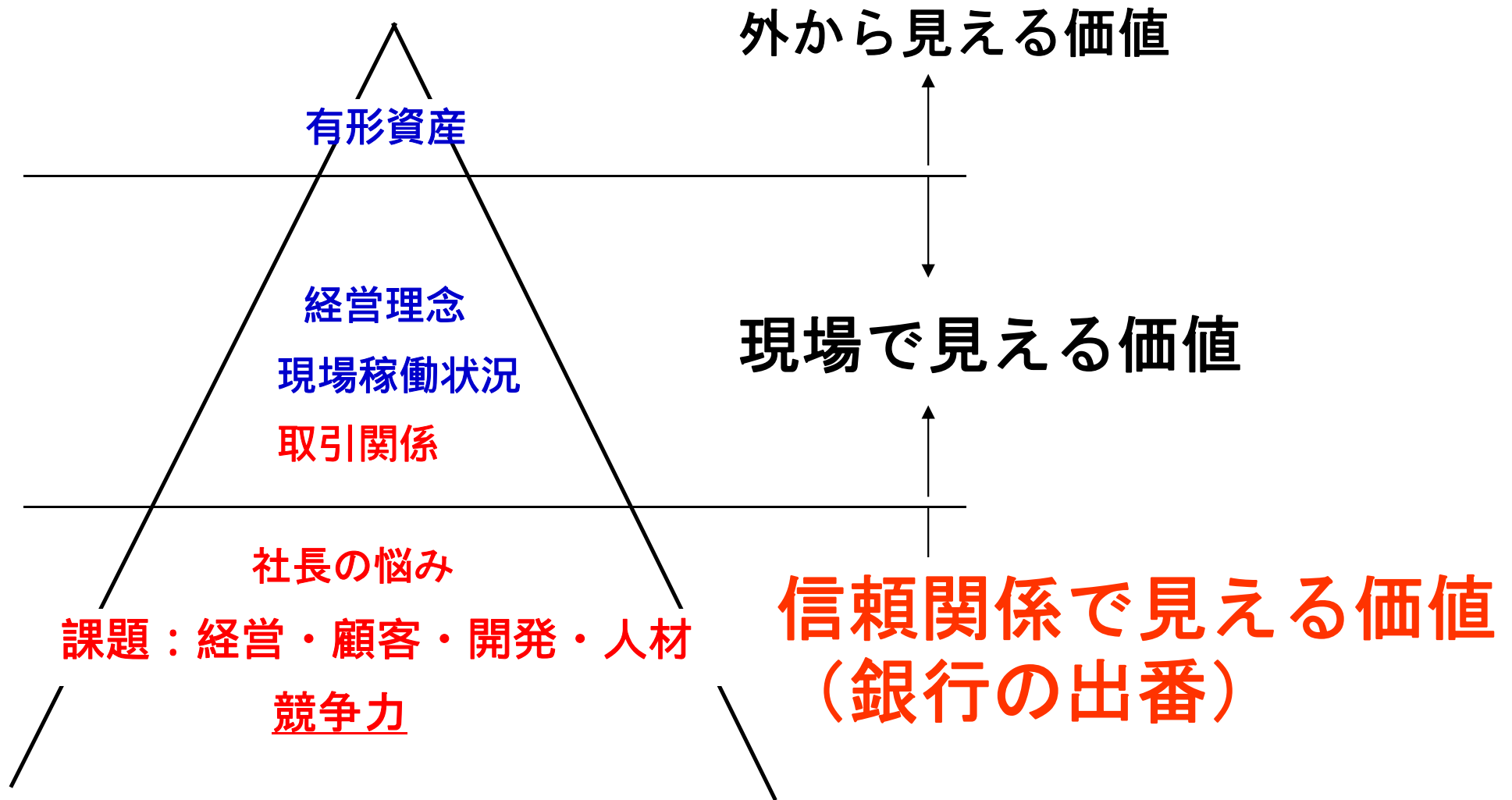


⑤修理・メンテナンス

- ・マイスター育成によりどんなものでも修理



※ 信頼関係の中から課題や競争力が見える



●課題や競争力が見えれば、仲介力が活きる

(2) 産学官金連携の成功に向けて 特に大学

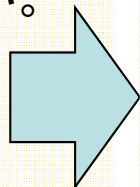
<課題>

●大学全体としての課題

- ・地域貢献、企業支援に関する評価やインセンティブが不明瞭

●教員側の課題

- ・教育、研究、学会、学内雑用で猛烈に忙しい。
- ・社会貢献はしたいが、特に若手の教員はどうしたらよいかわからない。
- ・中小企業の現場に出向いたことがない。



●企業の持ち込む課題

- ・企業課題は教員一人では太刀打ちできない。
(※逆ひざづめ、教員を束ねる必要)

●産学連携部門の課題

- ・教員は兼任で、スタッフ・C/Dは短期雇用
- ・地域や企業をイメージできるスタッフが欠落
従って、手間がかかる非定型業務はできない。

<対応策>

①共同研究中心の産学連携の見直し

- ・ひざづめ技術相談、卒論・修論のテーマ共有、インターンシップ、社会人入学、試験研究設備の発注・共同開発、競争的資金の獲得支援など多岐にわたる支援を。

②研究・教育の中に 地域貢献をビルトイン

- ・1年間の教育・研究の中に地域貢献のタマを予めビルトインし、日常の忙しさの負の連鎖からの解放を。

③教員のスクリーニング

- ・第1: 地域貢献・中小企業に役立ちたいとの思いありき
- ・第2: オープンマインド、秘密を持たない、小出しにしない
- ・第3: 学生、若手教員を自由に扱える立場にいる

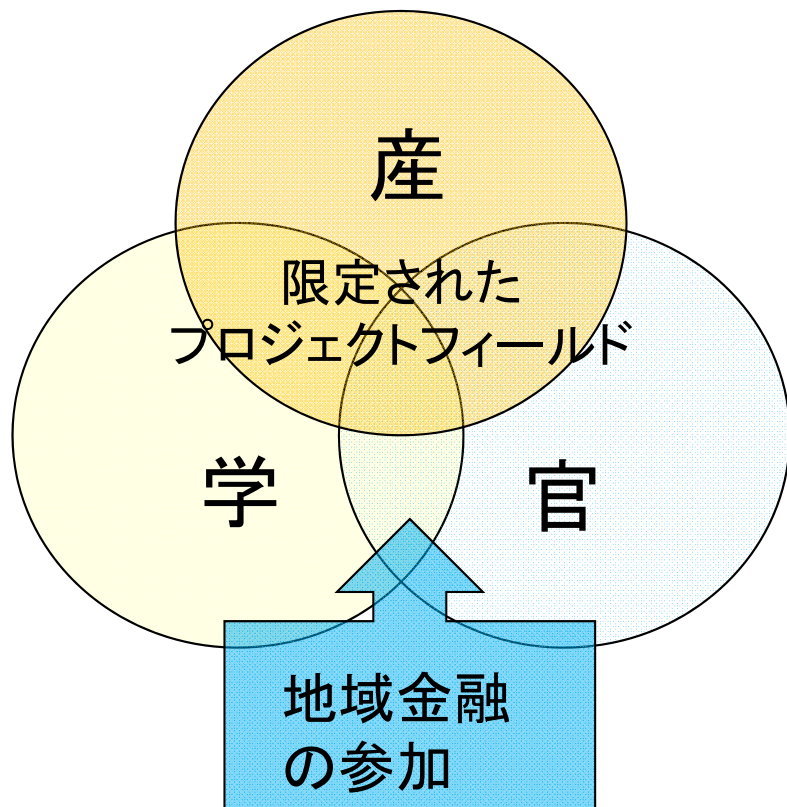
④産学連携部門に地域・企業 イメージを持つ人材を入れ込む

- ・地方銀行、自治体、三セクなどからプロマネとして採用

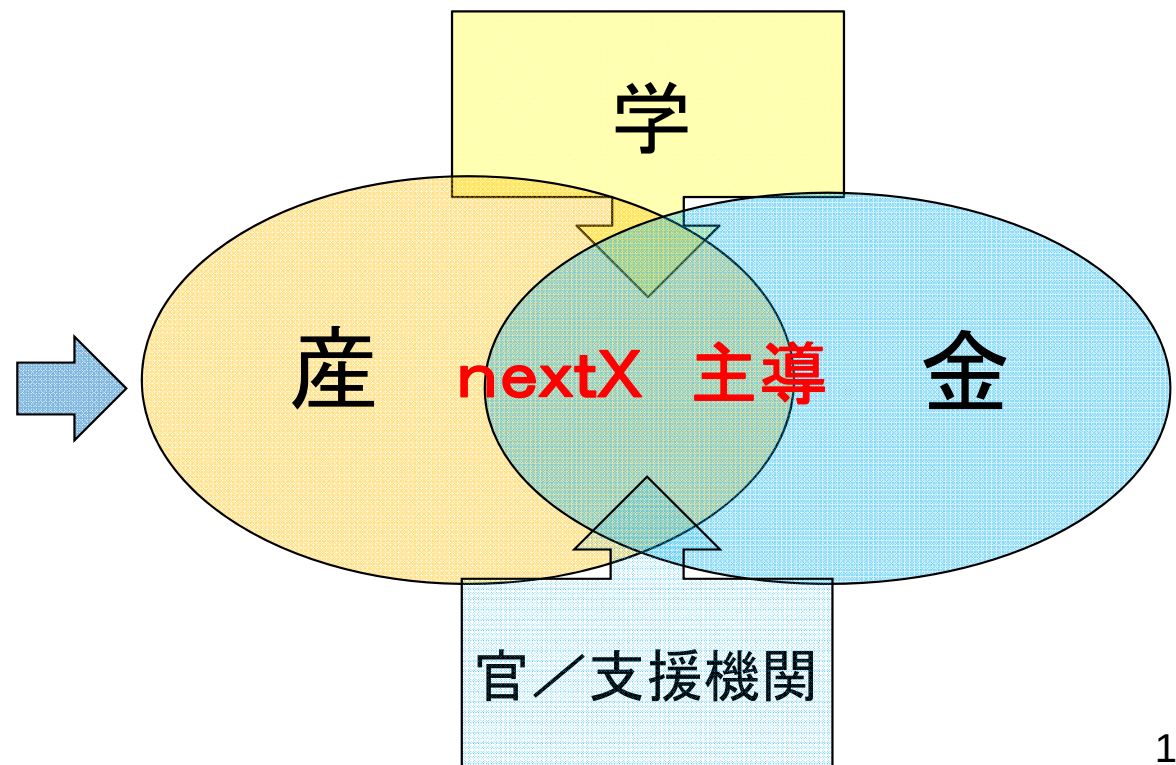
(3) 官学主導から産金主導への転換が必要

- ・官学主導では、企業の**実情(競争力・財務体質など)**を見通すのは困難
- ・大学の先生方は**忙しすぎる。民に任せるべき。**
- ・ただし、課題も多い。特に地域イメージと幅広い経験を有する**司令塔(プロマネ的人材)の不足**

現状の産学官金連携

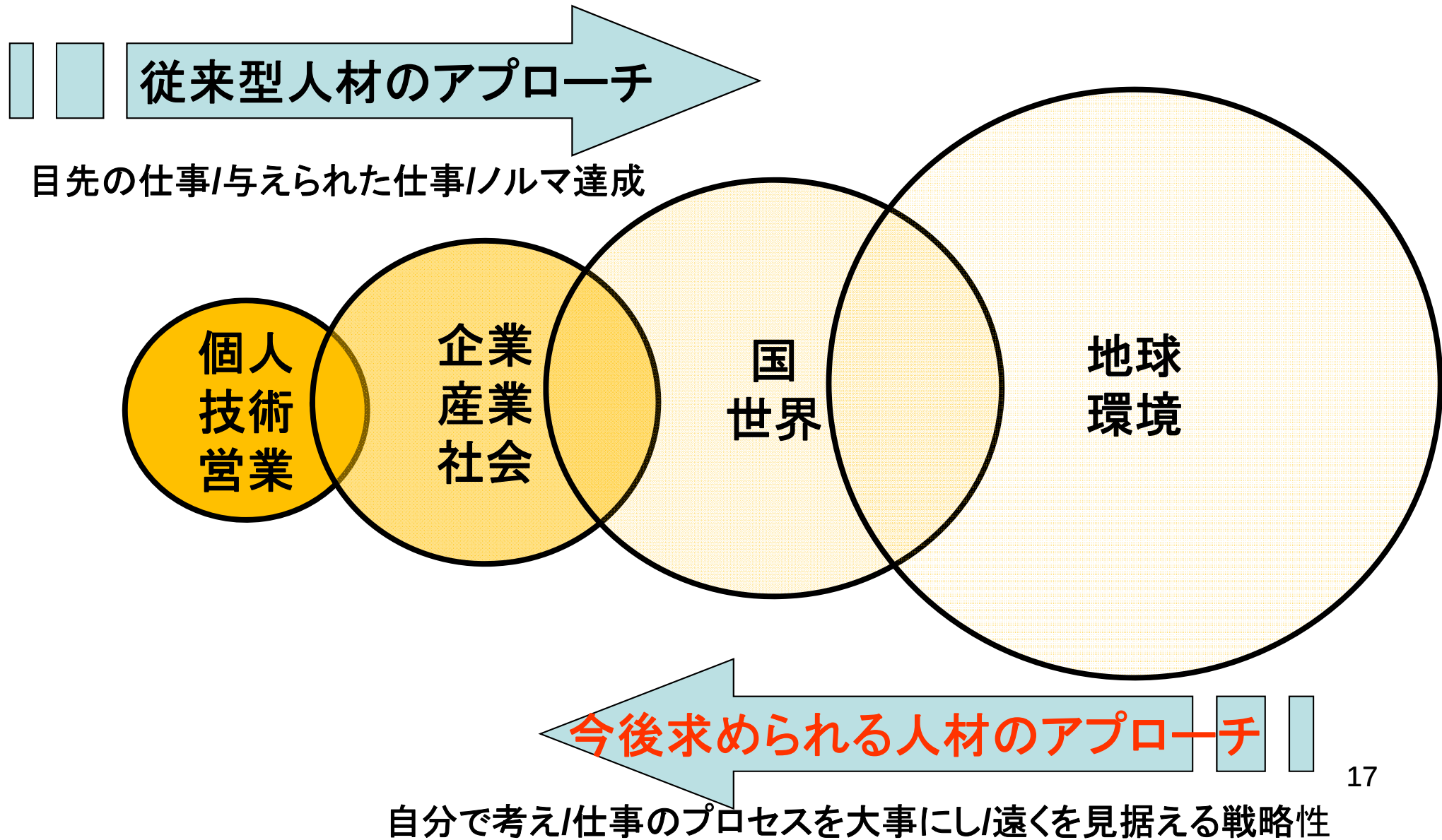


目指すべき産金中心の連携



※求められる司令塔(プロマネ)像

産業社会の大きな流れ、大きな枠組みで考える経験・能力



※ 試行中：塑性加工ネクストテン・コンソーシアム

- ＜特色＞
- ①ねらい：世界で戦える3つの力 企業力／技術力／人材力の育成
 - ②大学における教育・研究・社会貢献の一体的展開
 - ③会費性、優良企業10社を対象。
 - ④教員8名、院生・学生12名、CD3名、公設試2名が参加
 - ⑤機密保持を結び、企業課題をエンジニア、教員、学生、CDで議論

＜活動＞

- ①企業巡回：教員、学生、CDで生産現場を複数回訪問
- ②若手技術者教育：学生のトライアルインターンシップ、講座形式＋WS形式で塑性加工講座開催、若手技術者が他分野の技術を身につけることの重要性を学ぶ
- ③コア技術・ノウハウの伝承支援：各社の伝統的技法やノウハウ、職人技などにどのような科学的な特殊性や先進性、特徴があるのかを探り出し整理・分類
- ④営業活動：塑性加工の総合技術と大学の知的背景と技術開発力を有する共同体としてのパンフを作成、発注側から宿題をいただき、次の開発テーマを探る



V. まとめ

- 地域の元気の源は“生産活動／ものを動かしお金を回す”こと。
- ものづくり企業は、地域の雇用の場として重要な存在。しかし、経営の基本を実行し特徴ある技術／製品／サービス、科学に裏付けられた技術、加工の上流の素材や下流の表面処理・機能性などの知識がないと付加価値は少なく、生き残りは難しいこと。
- ものづくり企業支援は、経営者を取り巻く4象限、経営／技術／顧客開拓を一気通貫で行うこと。そのためには、地方銀行と地方大学の本格的な出番になり、産学官金連携が重要なこと。
- 地域での産学官金連携の促進には、共同研究中心を見直し、1年間の教育・研究スケジュールの中に、地域貢献のタマをビルトインし、教員の負担を軽くすること。
- 産学官金連携には、地域イメージを持ち不転退の決意の司令塔(プロマネ)が不可欠なこと

産学官金連携のその先に

競争力ある商流 → サステナブルな地域の実現

産学官金
連携による
経営者との
信頼関係
構築

